



祭礼体感シアター

Virtual Festival Theatre



青柏祭 でか山曳き揃え、七尾市



いしかわ赤レンガミュージアム

石川県立歴史博物館

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

祭礼体感シアターとは

緊張感と躍動感にみなぎる圧巻の祭礼世界。その場になつと、空気が揺れているような感覚を覚えます。

現在、祭礼世界の魅力を伝えられる最高の媒体は映像です。ただし、できあがった作品のほとんどは、場の雰囲気^{雰囲気}の1/100、いや1/1000しか表現できていません。まして、解説の言葉をかぶせると、独特の雰囲気は完全に^{がいじやく}消されてしまいます。

映像とは実に脆弱な表現方法なのです。しかし、なんとかこの方法を用い、祭礼の場を再現できないか。この困難な目的の実現のために企画したのが、祭礼体感シアターです。

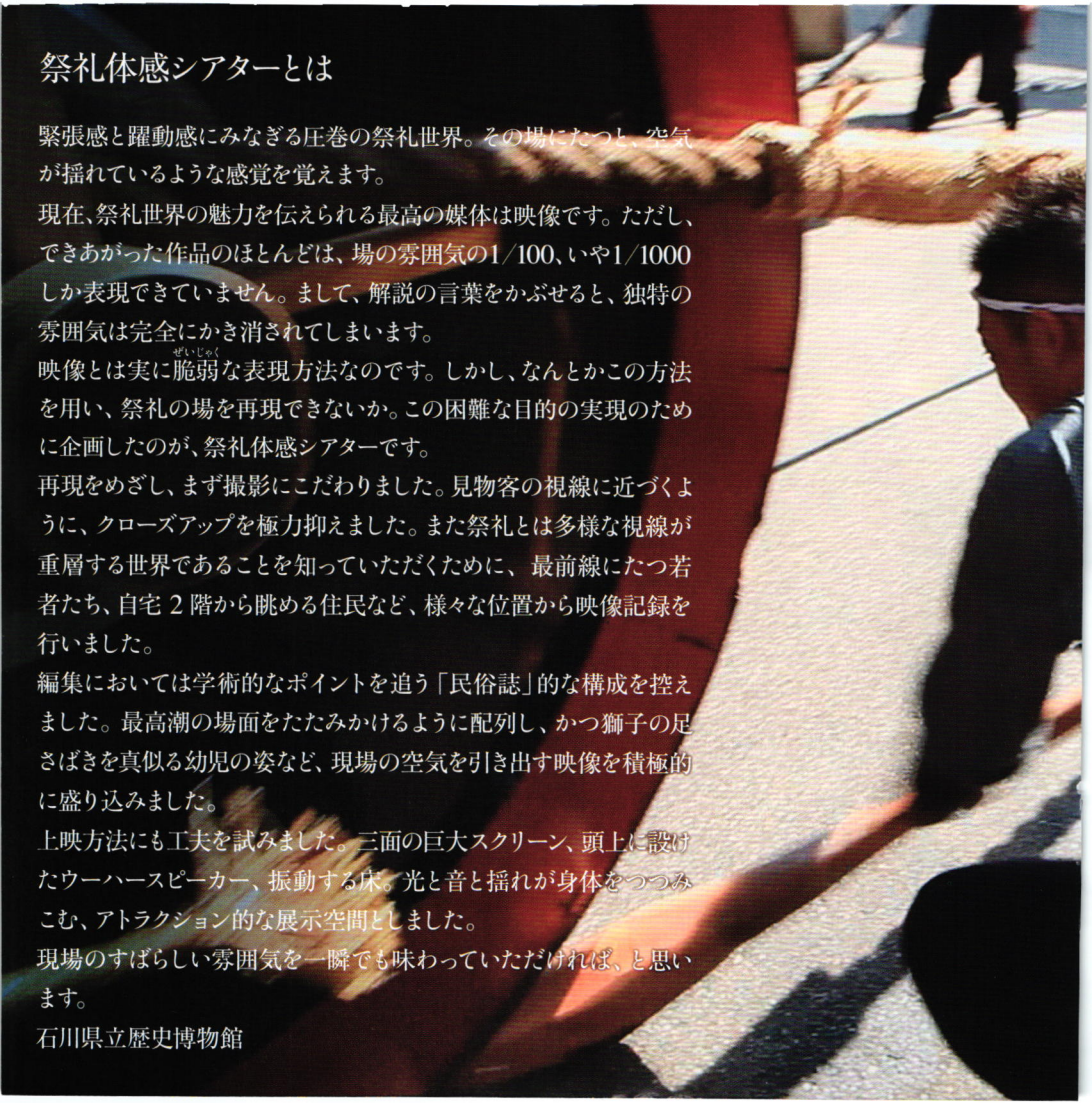
再現をめざし、まず撮影にこだわりました。見物客の視線に近づくように、クローズアップを極力抑えました。また祭礼とは多様な視線が重層する世界であることを知っていただくために、最前線になつ若者たち、自宅2階から眺める住民など、様々な位置から映像記録を行いました。

編集においては学術的なポイントを追う「民俗誌」的な構成を控えました。最高潮の場面をたたみかけのように配列し、かつ獅子の足さばきを真似る幼児の姿など、現場の空気を引き出す映像を積極的に盛り込みました。

上映方法にも工夫を試みました。三面の巨大スクリーン、頭上に設けたウーハースピーカー、振動する床。光と音と揺れが身体をつつみこむ、アトラクション的な展示空間としました。

現場のすばらしい雰囲気を一瞬でも味わっていただければ、と思います。

石川県立歴史博物館





でか山を曳く 5分53秒

青柏祭

七尾市 撮影日 2013年5月2～5日

おおとこめし 大地主神社の祭礼は古くは4月申さるの日に行われ、神饌しんせんを青い柏の葉せいばくに盛るため「青柏祭」と呼ばれる。3つの山町やまちょうから奉納される、高さ12m、重さ20tにおよぶ「でか山」が名物で、1685(貞享2)年の由緒書上にその記録が見える。でか山巡行の中心となる若衆は、曲り角で向きを変える「辻まわし」など、木遣唄きやりうたに合わせ統率のとれた動きを見せる。5月2日夜は人形を披露する「人形見」、3日夜に鍛冶町の巡行である「宵山よい」、4日未明から府中町の「朝山」、そして4日朝から魚町の「本山」が行われ、3台が奉納されると祭儀が始まる。

〔国指定重要無形民俗文化財〕

祭りの宝庫 能登 8分40秒





とも旗祭り 能登町小木 撮影日 2013年5月3日

石崎奉燈祭 七尾市石崎町 撮影日 2013年8月3日

お熊甲祭り 七尾市中島町 撮影日 2013年9月20日

とも旗祭り

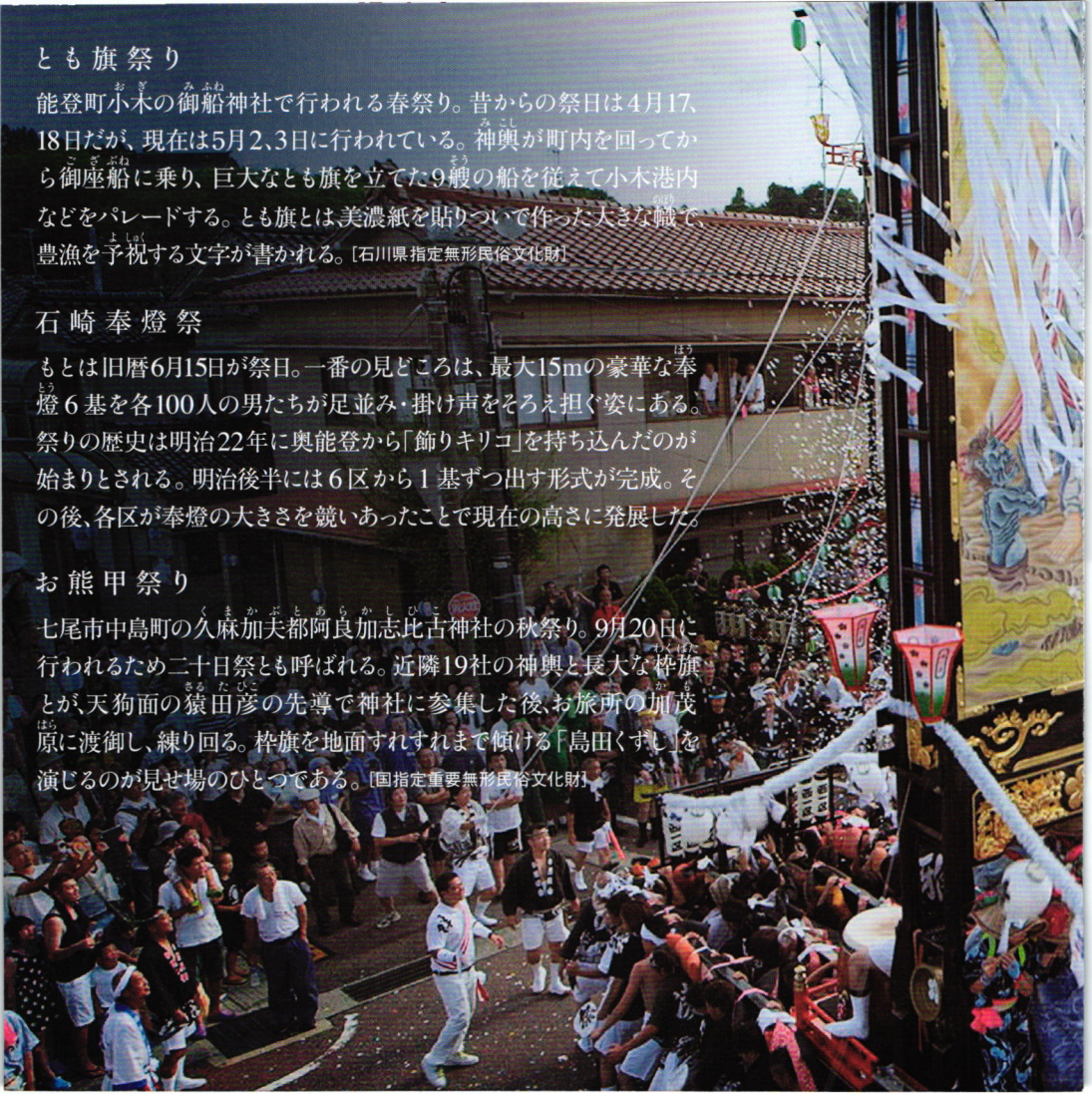
能登町小木の御船神社で行われる春祭り。昔からの祭日は4月17、18日だが、現在は5月2、3日に行われている。神輿が町内を回ってから御座船に乗り、巨大なとも旗を立てた9艘の船を従えて小木港内などをパレードする。とも旗とは美濃紙を貼りついて作った大きな幟で、豊漁を予祝する文字が書かれる。[石川県指定無形民俗文化財]

石崎奉燈祭

もとは旧暦6月15日が祭日。一番の見どころは、最大15mの豪華な奉燈6基を各100人の男たちが足並み・掛け声をそろえ担ぐ姿にある。祭りの歴史は明治22年に奥能登から「飾りキリコ」を持ち込んだのが始まりとされる。明治後半には6区から1基ずつ出す形式が完成。その後、各区が奉燈の大きさを競いあったことで現在の高さに発展した。

お熊甲祭り

七尾市中島町の久麻加夫都阿良加志比古神社の秋祭り。9月20日に行われるため二十日祭とも呼ばれる。近隣19社の神輿と長大な杵旗とが、天狗面の猿田彦の先導で神社に参集した後、お旅所の加茂原に渡御し、練り回る。杵旗を地面すれすれまで傾ける「島田くずし」を演じるのが見せ場のひとつである。[国指定重要無形民俗文化財]





石崎奉燈祭 堂前 七尾市石崎町

獅子舞う国 15分19秒





親子獅子

加賀市大聖寺関町 撮影日 2014年4月12,13日

加賀獅子

金沢市木越町 撮影日 2014年9月14日

小獅子

羽咋市 羽咋地区 撮影日 2013年9月14日

獅子舞とにわか踊り

七尾市能登島半浦町 撮影日 2013年10月13日

獅子舞

羽咋市神子原町 撮影日 2013年9月15,16日



加賀獅子演舞 金沢市木越町



親子獅子

大聖寺・加賀神明宮の春祭りには各町から神楽系の獅子舞が出る。関町では戦後、芸達者な住人が中心となり、旧来の神楽系の型を残しつつ、新たに長唄の要素を取り入れ、親子の情愛を演じる独特の座敷獅子に改良した。

加賀獅子

金沢を中心に加賀地方の多くの獅子舞は「加賀獅子」と呼ばれる。豪華で大きな獅子頭とカヤで構成され、獅子頭の前で演ずる棒振りで、最後に獅子を討ちとるところが大きな特徴である。〔金沢市指定無形民俗文化財〕

小獅子

小獅子は能登南部独特の獅子舞。羽咋地区では、高校生の指導のもと小・中学生が踊る。演目は7種。2日間で踊る場所は神社境内、御旅所18か所、氏子宅前約600か所。踊り続ける体力をつけるため、練習は2か月前から毎晩行われる。

獅子舞とにわか踊り

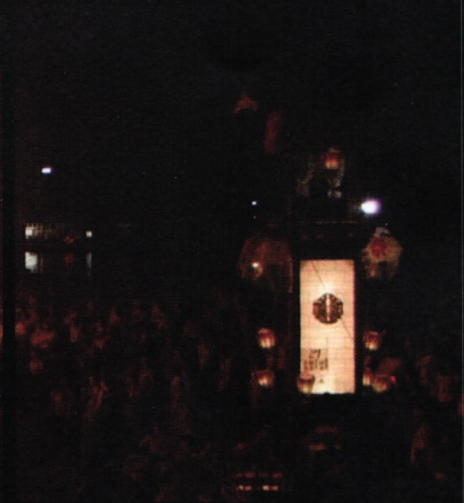
能登島の秋祭りでは、歌舞伎などを題材とした寸劇風の「にわか踊り」が獅子舞とともに演じられる。最初に「三番叟」を踊るのは歌舞伎の慣例によるもので、半浦町では4種の獅子舞と、「馬踊り」など4種のにわか踊りがこれに続く。

獅子舞

羽咋・鹿島両郡の一部や羽咋市の山側には「越中獅子」系統の獅子舞が見られ、羽咋市神子原町もその一つである。胴体のカヤに5人が入り、獅子と天狗が対峙し舞い踊る。演目は13種で、宮入り後に「獅子殺し」が演じられる。

火の風流 9分36秒





虫送り

白山市横江町 撮影日 2013年7月14日 / 2014年7月20日

秋祭り

宝達志水町今浜 撮影日 2013年9月15日 / 2014年9月14日

あばれ祭り

能登町宇出津 撮影日 2013年7月5,6日

虫 送 り

稲の害虫を追い払う夏の行事。特に石川県内で有名なものには、白山市横江町の虫送りがある。7月21日の祭りであったが、現在は「海の日」の前日に行われる。夕方、桶胴太鼓を先頭に住民たちが松明を持って田んぼを回る。最後に、燃える「虫送り」のアーチをくぐり、神社境内に走り込み、篝火を囲み太鼓を乱打する。〔白山市指定無形民俗文化財〕

秋 祭 り

能登南部では19世紀後半から獅子舞の景気づけや余興として祭礼に花火をたく風習が広まったが、今も盛大なのが今浜である。昭和30年頃まで青年団自ら、孟宗竹を素材に吹き出し花火を作っていたが、その後、市販品を使うようになった。現在、祭礼3日間で約2万個の花火を消費する。渡御後の道路表面は使い終えた花火の筒で埋め尽くされる。

あばれ 祭 り

疫神の退散を祈る「祇園祭り」を起源とする宇出津・八坂神社の夏祭り。初日の宵祭りではキリコが柱松明の周囲を乱舞し、翌日の本祭りでは酒垂神社と白山神社の神輿が還御する。神輿は途中地面に叩きつけられ、水や火に投げ込まれ、損壊した状態で宮入りとなる。神輿を激しく暴れさせるのは、神に祈願をするための作法とされる。〔石川県指定無形民俗文化財〕





獅子舞と祭礼花火 宝達志水町今浜